

小林村長や弥彦の友だちに見送られて

モンゴル訪問団 きょうは成田空港から帰国

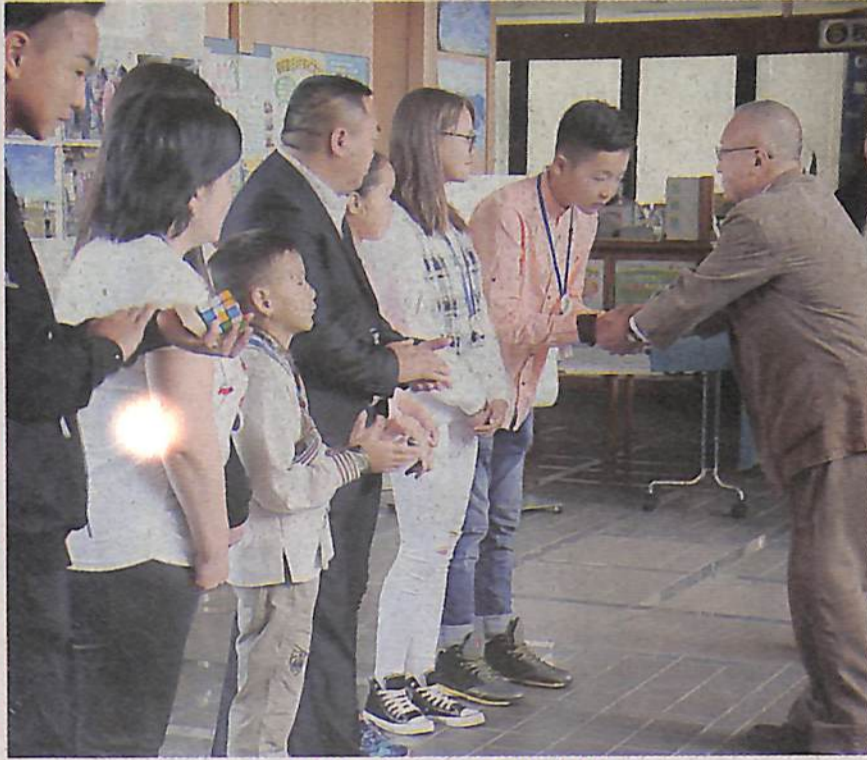
弥彦大鳥居をバックに記念撮影

イルカショーにびっくり

おとなになっただらまた来たい

弥彦村と友好都市協定を結んでいるモンゴル・エルデネ村友好親善訪問団のお別れセレモニーが二十一日午前八時二十分頃から役場村民ホールで行われ、小林豊彦村長と、エルデネ村のムンフサイハン村長が今後も両村の交流を続けることを約束。訪問団の一行九人はホストファミリーに見送られて、六日間過ごした弥彦村を後にした。

訪問団はムンフサイハン六日から二十一日までの観光などで過ごした。村長と広報担当職員、五泊六日で弥彦村を訪問。二十日の夜は、エルデネ村の子どもたちは弥彦のソシヤルワーカーと会や、弥彦村内や周辺の中学校の生徒の家庭でホストファミリー。お互いに言葉が通じなかったが、子どもになると思っただも同士、ゲームをした。再会するときにはよろしり、片言の英語で話した。くお願ひします」と述べた。



一人ひとりと握手する小林村長

お別れセレモニーにムンフサイハン村長は、小林村長、青木勉副は、訪問団を暖かく迎え村長、林順一教育長ら職てくれた弥彦村、ホスト員、ホストファミリーなファミリーへの感謝を述べた。約五十人が出席。あいさつで、小林村長は「本も心が通じ合って、一緒に帰られてからも交流を長く続けていきたい。味があったと思う。次は来年は弥彦村から訪問す



感謝を述べるムンフサイハン村長

訪問団の子ともたちは「日本の印象は忘れられない思い出になった。海で撮った写真を友だちに送りたい」と話した。「言葉が通じなくても心を通じ合えて、大きな宿題が



役場で開かれたお別れセレモニー

「モておいしかった。日本人は果物、野菜をたくさん食べるから元気で過ごせると、父母に話したい」とびびりつつも、おとなになっただらまた来たい



ホストファミリーとお別れをする子どもたち

訪問団の一人ひとりと、訪問団を引率した弥彦村の担当課長が一言ずつあいさつ。訪問団の子ともたちは「日本の印象は忘れられない思い出になった。海で撮った写真を友だちに送りたい」と話した。「言葉が通じなくても心を通じ合えて、大きな宿題が

なになっただらまた日本に「来たい」などと感想を話した。ホストファミリーを代表して、弥彦中三年生の和田萌瑚(ももこ)さん(五)は「私も海外の人との交流は初めてで、言葉が通じなくて不安だったが、友だちが助けてくれてホームステイできた。中学校の見学も楽しんでみたいので、日本人としてうれしかった」と感想を話した。

きょう二十一日は午前中、モンゴルとの交流のきっかけとなった大相撲伊勢ヶ濱部屋を訪問。午後、成田空港からモンゴル・ウランバートル空港に向かう。



ホストファミリーの見送りにする訪問団

大崎みと 会秋の作



紫色の花が多く垂れ下がったイロシヤン

秋の代表的

役場前で全員で記念撮影

タイモンシロウ